

万人乃
 田沼意次
 町人セ話人立置町屋敷其外
 諸色買置候二付
 田沼意次町屋敷其外
 俸二山城とおしゑる
 田沼意次金乃むくへ乃
 我が子ニむくふ
 切先は
 死出乃山城
 切れては馬鹿年寄聞と
 山も御城もさわぐ新番
 山城乃白の小袖も血に染て
 赤年寄と人はいふなり
 山城も佐野に討られて落城は
 主殿も家来も咽がすくなる

③〇 〔田沼意知一件戯文〕

(近世後期)

天明4年(1784)3月24日、田沼意次の嫡男
 ・山城守意知が江戸城内で新番士の佐野善左衛
 門政言に斬りつけられる事件が起こります。この
 田沼騒動とも呼ばれる事件の前後、それまでの田
 沼政権への批判や不満が噴出し、江戸の民衆は落
 首により田沼を皮肉って風刺しました。本史料は、
 田沼騒動に関わる戯文集のようなもので、多くの
 落首・戯文が掲載されています。意次を指す
 「主殿」、意次が徴した運上金や賄賂を指す「金」、
 意知を指す「山城」や「若年寄」、政言を指す「善」
 や「新番」など、江戸の人々のユーモアと知性が
 感じられます。



佐波郡境町(現伊勢崎市)
 福島英一家文書
 P0110・No.1744

〔釈文〕

【③〇】〔田沼意知一件戯文〕

万人乃
為に

佐野身は
 おしからじ
 善んくと
 人はいふなり

猪銅五郎兵衛
 万年六三郎
 田沢伝左衛門
 白井主親
 小池甚兵衛
 山下弥左衛門

町人セ話人立置、町屋敷其外
 諸色買置候二付、

田沼、沼茂、町茂、屋敷茂、御老中
 俸二山城とおしゑる

田沼れて 金乃むくへ乃
 切先は

我が子ニむくふ
 死出乃山城

切れては馬鹿年寄聞と
 山も御城もさわぐ新番

山城乃白の小袖も血に染て
 赤年寄と人はいふなり

山城も佐野に討られて落城は
 主殿も家来も咽がすくなる

田沼てつふかけき金とれ
差別もなしに取は山城

黄金乃統江ハ夢となりにけり
劔の金と化して身となる

辰ノ年大小

大名の六正二にくむ七ツ星
今四九ぢると霜の悦び

殿中騒動丸 一包百五拾俵
半包五拾俵

若年寄ニ用イ血ヲなかす役ヲゆるす
切り疵ニよし

一田或は沼の水吞によし

一武士・町人百姓ニよし

一大小名さしつかいによし

一咽乃せんざくといふ疼ニ

奇妙也、何れ茂佐野湯ニ御用

但シ諸役差合なし、尤評義御見せ之上

揚り屋すき乗り差上可レ申候

劔命死

三ヶ血二死ヶ四日仁

切弘申候

本家山城屋絶命劔
取留所対馬屋松平

評判きづくし

一田沼ハため息つき 一主殿家来なき

一問々あらん心つき 一去ル人は逃のき

一新番頭ハなんぎ 一殿中で刀ヲぬき

一さまくの評ぎ 一評定所でせんぎ

一佐野ハ乱き 一世間ハ評き

一武士方ハゑツき 一對馬はいだき

一もはや善佐ハシやき 一米は下シき

(後略)